

一宮町の歴史特集 特別編

戦後75年 一宮町と太平洋戦争(下)

町民の戦争の記憶

平成20年、21年と町では聞き取り調査を実施、その調査結果は『町民が語る昭和の一宮』『同2』として刊行されています。そして現在でも年に数件聞き取り調査を実施しています。

先月のコラムでも書きました、風船爆弾や勤労奉仕の話も多く聞きます。そのうちいくつかを紹介します。

まず、シンガポール陥落時の話です。昭和16年(1941)12月の日英米開戦、つまり海軍の真珠湾攻撃と同時に進められたのが陸軍によるマレー作戦です。イギリス領マレー半島に上陸した陸軍は、難攻不落とされたイギリス軍のシンガポール要塞を昭和17年2月に攻略しました。

陥落のニュースが届くと、2月18日には先の真珠湾攻撃などの成功を祝う戦勝記念式典が東京で行われ、日本各地も活気に沸きました。一宮では国道で街頭行進が行われ、大勢の人が見学したといえます。

続いて、機銃掃射の話です。茂原には日立の工場があり、空襲を受けていたことは知られていますが、一宮では空襲を受けたという話はあまり聞きま

せん。しかしながら太平洋のアメリカ軍空母から飛び立ち、茂原や東京へ爆撃に向かう艦載機の航路上にあることから、機銃掃射を受けたという町民の方の話もあります。また、海上の軍艦からの艦砲射撃をみた(狙われたのは白子方面の模様)という話、空襲警報と防空壕の話、昭和20年1月に現在の下村地域に墜落した日本軍機の話など、ここでは書ききれないほどの貴重な「証言」があります。

玉前神社境内には戦争の招魂殿と石碑が建てられています。東浪見駐在所横にも忠魂碑が建立されており、それぞれ戦没者名が記されています。町自体に大規模な被害が確認されていないとはいえ、町民の方々は否応なく、戦争に巻き込まれていたのです。



▲玉前神社境内の招魂殿と石碑



▲東浪見の忠魂碑(東浪見 1639-2 付近)

一宮町事件

最後に取りあげるのが、一宮町事件(ホックレー事件)です。

昭和20年8月15日午前10時頃、長生郡西村(現長南町)の上空で、イギリス軍空母の艦載機が日本軍の戦闘機によって撃墜され、搭乗員だったフレッド・ホックレー少尉は東村(現長南町)にパラシュート降下し、警防団員らに捕獲されました。第147師団歩兵第426連隊に引き渡され、午後には土睦村(現睦沢町)妙勝寺に駐屯する連隊本部に移送、将校の宿舍として使われていた隣家の庭の木に縛られたといえます。午後5時頃に同隊の中隊本部が置かれた一宮の個人宅の屋敷に連行されました。

玉音放送後で日英の戦闘状態が終わっていました。ホックレー少尉は洞庭湖付近の山中に連行され、その場で銃殺されてしまいます。処刑後遺体は

山中に埋葬されましたが、その後掘り起こされ火葬、一宮の実本寺に一時安置されました。

戦後、この事件に関与した将校3名は香港で行われたBC級戦犯裁判にかけられ、2名は絞首刑(昭和21年9月に執行)、1名は禁固15年の判決を受けました。

玉音放送後の事件であり、なぜホックレー少尉は殺されなければならなかったのかなど戦後75年が経った今でも多くの謎が残されています。

2回にわたり、一宮と戦争についてその一部を紹介しました。まだまだ書き足りないことも多くあります。

戦後75年。昨年は風船爆弾打ち上げ75年と題して講演会を開催しました。これからも町民のみなさんとともにこの歴史を調べ、後世に「記憶」を「記録」として、残していきたいと思えます。

(終)

〈主な参考文献〉

- ・『幻の本土決戦 房総半島の防衛』第5巻(千葉日報社、1991年)
- ・『町民が語る昭和の一宮』(町教委、2008年)
- ・『町民が語る昭和の一宮2』(町教委、2012年)
- ・その他風船爆弾関係書籍

(教育委員会 江澤一樹)

【問合せ】教育課 ☎(42)1416